事例No.	1259
公表年度	R2
団体の属性	一般市
団体名	兵庫県洲本市

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・ICT

事例種類	関係人口

事例内容・タイトル

卒業生との関係再構築による“即戦力人口”創出事業

出典

令和２年度「関係人口創出・拡大事業」モデル事業調査報告書

(15) 兵庫県洲本市

事業名：卒業生との関係再構築による“即戦力人口”創出事業

取組の概要

市の域学連携事業に参画した大学卒業生等との連携による地域づくりの実践と、実践拠点整備を目指すワークショップを実施。また、卒業生と地域住民との双方向の情報交流を促進し、関係を継続させる仕組みとしてホームページを開設。

主な成果

ワークショップを通じて、３件のプロジェクトが形成され、ワークショップ参加者のうち 18 名が次年度以降の実施に向けて参画を表明。

①事業の背景・目標

1) 関係人口によって解決・改善を図りたい地域課題

・市の人口ビジョンでは 20 年後には人口が約２/３に減少すると予測されるほか、人口ピラミッドにおいては 20～24 歳の若年層が明らかに少なく、これら人口減少に起因する経済の縮小、高齢化、担い手不足などが課題。
・中高生アンケート結果からも、進学や就職で一度流出した若年層が若いうちに戻ってくる可能性は低い。

2) 概ね５年後の地域の理想の姿

・卒業生等が、本市の地域づくりをスピード感や連続性をもって企画・実践している。
・卒業生が所属する企業の CSR 活動やビジネスのフィールドとして本市が選ばれている。
・卒業生等が関係人口として継続的に地域に関われる仕組みや体制が構築できている。

3) これまでに取り組んできた関係人口関連施策の実施状況・成果

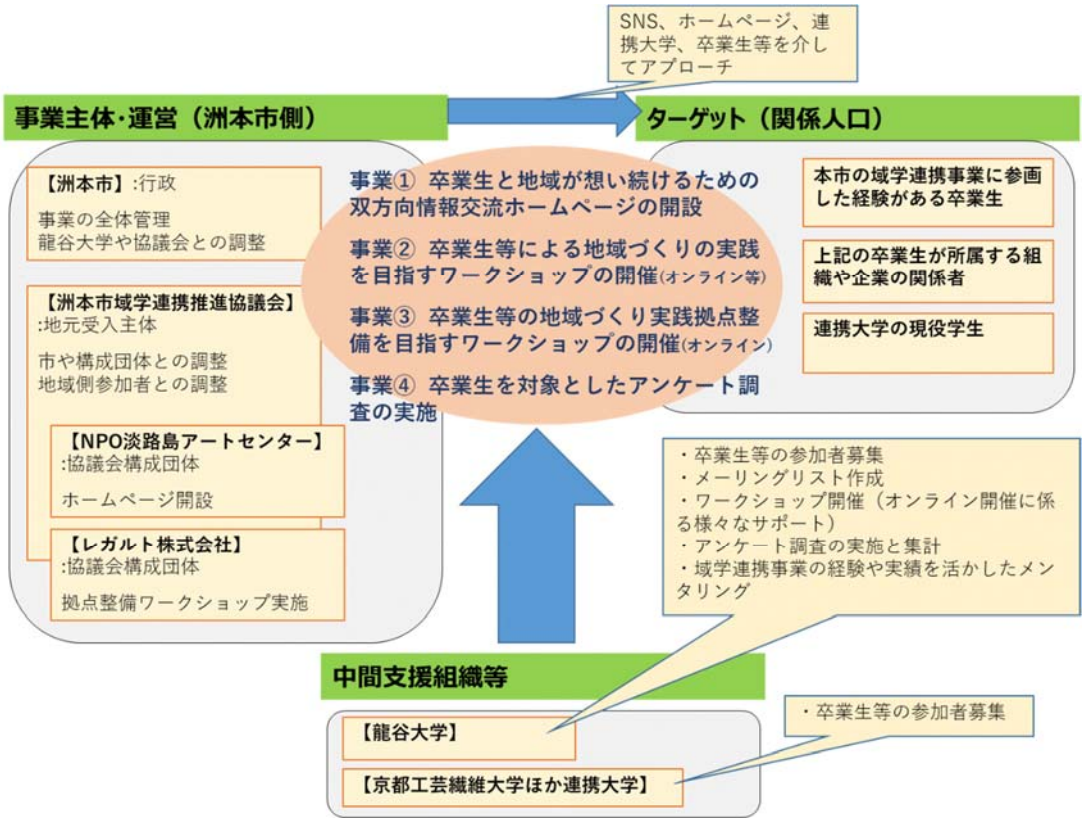
・総合大学が無い本市では、都市部の大学と協力関係を構築し、学生や教員が泊まり込みで市内の地域に入り、地域の住民や団体等と一緒になって話し合い、考え、汗を流しながら、課題やニーズを把握し地域の魅力や未利用資源を掘り起し、継続性や賑わい創出に配慮した事業モデルを構築・実践する「域学連携事業」を８年間継続実施している。
・売電利益を地域貢献に用いる太陽光発電所の設置、農業用ため池保全活動を観光化するツアーの開催、放置竹林を有効活用するメンマ商品開発、空き家リノベーション等の成果をあげてきた。

4) 今年度事業の目標

目標	卒業生がいつまでも関係人口として在り続けてもらうための機運が醸成され、その次につながるためのネットワークが構築される
成果指標	ワークショップの成果のうち、卒業生等の関係人口との協働により具現化を目指すプロジェクト案件数
目標値 （基準値）	２件（基準値：０件）

②事業実施体制

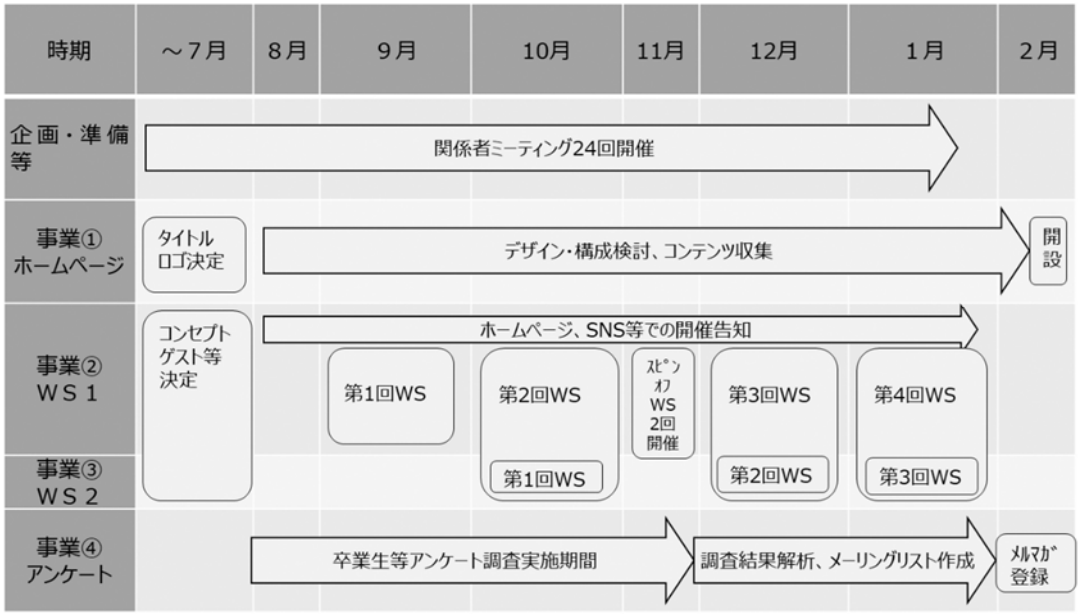
区分	団体・組織名称	役割
行政	洲本市	事業の全体管理、龍谷大学や協議会との調整
地元受入主体	洲本市域学連携推進協議会	市や構成団体との調整、地域側参加者との調整 ホームページ開設 拠点整備ワークショップ実施
中間支援	龍谷大学	卒業生等の参加者募集、メーリングリスト作成、ワークショップ開催（オンライン開催に係る様々なサポート)、アンケート調査の実施と集計、域学連携事業の経験や実績を活かしたメンタリング
その他	地域側参加者	ワークショップでの卒業生等の検討内容に応じたサポート



③ターゲット設定とアプローチ方法

ターゲット層	アプローチ（情報発信）方法	期待する役割・関わり方
・本市の域学連携事業に参画した経験がある卒業生 ・連携大学の現役学生	・連携大学を通したアンケート調査	・本市の関係人口創出拡大のために必要な取組やヒントを得る
	・SNS やホームページによるワークショップ開催案内	・地域の状況をよく知り、社会的にも経済的にも自立・成長した卒業生に、高い実践力を備えた地域づくりの即戦力としてワークショップに参画してもらう ・ワークショップを通して、具現化を目指し継続検討するプロジェクトを生み出す
・上記の卒業生が所属する組織や企業の関係者	・卒業生を介したワークショップ開催案内	

④事業スケジュール



⑤取組の内容

【取組1　卒業生と地域が想い続けるための双方向情報交流ホームページの開設】

目的と概要

・現役学生時代に関わった地域において、今も引き続き展開される様々な地域づくり活動の様子を発信するホームページ「バンカランカ～洲本のおもろい数珠つなぎ～」を開設し、卒業生のその後や本市に対する想いと、地域住民の表情や声などを双方向で情報交流することで、両者の関係が疎遠にならず、いつまでも関係人口として在り続けてもらうための機運の醸成につなげる。



【取組2　卒業生等による地域づくりの実践を目指すワークショップの開催】

目的と概要

・卒業生と卒業生が所属する企業の関係者を対象に、域学連携事業の蓄積を生かしながら、本市の活性化に向けた実践的なワークショップ「おもろいの学校」をオンラインで５回、現地で１回開催。272 人が参加。

＃01　地域が躍動する“おもろい”のチカラ（９月 13 日開催、117 名参加）	外部有識者とともに「おもろい」とは何かを掘り下げた。「おもろい」を作れると信じた人が集まると、活発な意見や発想の飛距離が生まれる、などの指摘があった。
＃02　“おもろい”企画のつくりかた（10 月 17 日開催、41 名参加）	ゲーム制作やオンライン事業を手掛ける外部有識者から、おもろい企画のつくりかた、ブレーンストーミングの方法を学んだ。
スピンオフ①　名もなき観光プロジェクト（11 月 26 日開催、９名参加）	大森谷里山保全隊 Rijin と龍谷大学学生のプロジェクトコアメンバーの会議をおもろいの学校スピンオフ企画として一般参加者に向けて開催し、次回以降の地域ピクニックにつながるアイデアの意見交換会を行った。
スピンオフ②　でっかい書道やってみた（11 月 28 日開催、13 名参加）	第２回おもろいの学校でのアイデアを生かしつつ、市内の書道家の指導のもと、地域外の関係人口の方１名に YouTuber になってもらい、「でっかい書道」を体験してもらった。

＃03　ビジネスと“おもろさ”の両立（12 月 6 日開催、46 名参加）	秋田から都市にむけた事業を手掛ける外部有識者に、コンセプトづくり、ネーミング、資金集めについて伺った。
＃04　”おもろさ”を伝え拡げるために（１月 31 日開催、46 名参加）	ワークショップから生まれた３つのローカルプロジェクトの成果発表を行った。また、外部有識者から、情報の伝え方やローカルメディアの作り方について伺った。

※第２～４回は、**【取組3　卒業生等の地域づくり実践拠点整備を目指すワークショップ】**も併せて実施。

成果等

・参加者アンケートでは、参加者の約８割が「内容に満足」と回答し、約７割が「洲本市の関係人口になりたい」と回答した。また、ワークショップから生まれた以下の３件のローカルプロジェクトが、次年度以降も継続して具現化を目指すこととなり、ワークショップの参加者のうち 18 人が、参画することを表明した。

＜みんなで育てる“おもろいの種”＞
洲本市役所の若手職員と一緒に、おもろい洲本をめざして「すもとのおもろい人材バンク」「関係人口 YouTuber」「リアル版おもろいの学校」を形にする。地元の人と島外の人、皆でつくる YouTube チャンネルを通じて、その視聴者が洲本市を訪問したり、プロジェクトに関わったりできる仕組みをつくる。

＜名もなき観光＞
一度きりの体験を通して、地域への新しい回路をつくりたい。20～30 代のカップルや女子会、カメラ好きやゆっくり流れる時間を求めている人を対象に、ピクニック道具のレンタルや販売、名もなき観光マップの提供、イベントを開催。多くの人に洲本の隠れた魅力を体験してもらい、洲本ファンを増やす。

＜洲本市拠点整備＞
学生のわくわくが地域の人々のわくわくに！　洲本市街地の商店街で、学生や卒業生のための拠点整備を進める。学生や関係人口による DIY ワークショップにより、商店街に学生と地域住民のコミュニティを創造する空間をつくる。

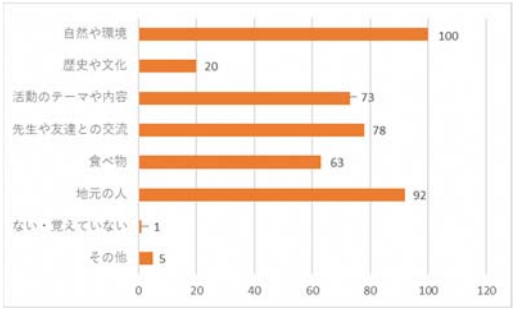
【取組4　卒業生を対象としたアンケート調査の実施】

目的と概要

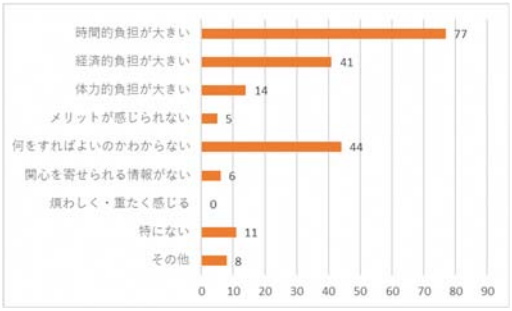
・卒業生を関係人口として維持するためのヒントを得るとともに、アンケート対象者である卒業生とのネットワークを構築するための足掛かりとするメーリングリストを作成するため、卒業生等を対象としたアンケート調査を実施。119 人が回答。

成果等

・「洲本市と関わり続けるために必要なことは？」という問いには「気軽さ」「具体的なプロジェクト」「地域の情報」「地域の人とのコミュニケーション」という回答が多く、回答者の約６割から「今でも洲本が恋しい」「もう一度（地域の人々と）会いたい」「洲本市とのつながりは消えて無くならない」といった熱いメッセージが寄せられた。これらの結果を活かし、洲本市の良いところは伸ばし、足りないところは補いながら、今後の関係人口の創出・拡大を図ることとする。また、アンケートを通して作成した 119 人分のメーリングリストを活用し、洲本市の取組をダイレクトに発信することとする。



洲本市での活動で良かったところ



洲本市に関わり続けるための障壁や改善点

⑥事業成果

1) 取組ごとの成果発現プロセス

取組名		事業②③ワークショップ	事業①ホームページ	事業④アンケート
取組の結果（アウトプット）		計６回開催し、延272名が参加（うち卒業生延27名）	ホームページ「バンカランカ～洲本のおもろい数珠つなぎ」を開設	119名分のアンケートを回収し、同数のメーリングリストを作成
取組の成果（アウトカム）	関係の創出・深化に関する成果	参加者アンケートでは、約８割が「内容に満足」、約７割が「洲本市の関係人口になりたい」と回答（回答数89）	洲本市の関係人口創出拡大に取り組む地域内外の19名を「ヨッ者ー！」として登録し、ホームページで紹介	アンケートでは、約７割が「洲本市に行きたい」と回答し、約６割が自由記述欄に洲本市への想いを記入
	地域にもたらされた成果	ワークショップから生まれた３件のプロジェクトの具現化に18名が参画する意向を表明	・21の関係人口創出拡大プロジェクトをヨッ者ー！が記事にして、ホームページで紹介 ・アンケートを踏まえ「具体的なプロジェクト」に「気軽」に参画できたり「洲本愛」をぶつけられるようなホームページを構築	ホームページ情報と連動した関係人口創出拡大メールマガジンを配信予定
今年度事業の目標達成状況		【今年度事業による目標達成指標（指標の実績値】 ワークショップの成果のうち具現化を目指す案件数：目標2件 → 実績値3件		

2) 本事業全体を通じた成果

・関係人口の創出拡大を図るためには、まず関係者が「おもろがる」こと。関係人口との連携による地域づくりの目標は、本市を「おもろくする」こと。このような仮説や方針は概ね正しい（間違っていない）ということが、特にワークショップに登壇いただいたゲストとの交流を通して明らか

となった。「おもろさ」という曖昧な評価指標ではあるが、６回のワークショップを通して、地域住民と参加者が「おもろいということの意味や大切さ」「おもろいことをいかに生み出すか」「おもろさをいかに持続させるか」「おもろさをいかに発信するか」といったことについて真剣に（おもろく）考えることができ、そのような場が本市の「おもろいの学校」である、ということを地域内外に定着させることができた。

・ワークショップには予想以上に多くの参加者を地域内外から得られ、その勢いを最終回まで持続することができた。現地開催よりオンライン開催の方が交通費や手軽さといった点で敷居が低く、また著名なゲストに登壇いただけたことも大きいが（アンケート結果からも）「おもろいの学校」というコンセプトが受け入れられたことが大きい。その結果、成果指標を上回る３件の具現化プロジェクトを参加者とともに生みだし、そのプロジェクト化の過程から卒業生を中心に盛り上がることができた。具現化に向けて既に YouTube 動画やプロモーション写真の撮影等が進められている。

・卒業生アンケートの結果から、本市の域学連携事業に対する高い評価や、今後の方向性（足りないことと改善点）などが明らかとなったが、回答者の約６割が自由記述欄で様々な「洲本愛」をたくさん語ってもらえたことが最もうれしく、域学連携の８年間の積み重ねが非常に意義深いものであったと実感できた。この自由記述欄にメッセージを書き込む行為そのものが、事業の目標である「卒業生がいつまでも関係人口として在り続けてもらうための機運」の醸成にもつながったと評価している。

・「おもろいの学校」というコンセプトのもと、３件の具現化プロジェクト、ホームページやメーリングリスト、中間支援組織である龍谷大学が本市にオープンする現地オフィス等を活用しながら、「おもろさ」「気軽さ」「具体性」を大切にした関係人口との連携プロジェクトをオンラインとオフラインの両面で生み出し、カタチにするための体制や仕組みが整った。本事業を通してつながった卒業生に限らない幅広い関係人口との関係性を深化させながら、おもろい地域づくりに一層邁進したい。

⑦事業を通じた課題・気づき等

1) 事業の目標設定と達成に関する課題・気づき

・オンラインを中心に「卒業生がいつまでも関係人口として在り続けてもらうための機運」を醸成するため、ワークショップのファシリテーターやプロジェクトリーダーには卒業生を多く登用した。またアンケート依頼文は、卒業生のかつての取組が今も本市で続いていることを紹介したり、地域でお世話になった人々が今も元気であることなどを語りかけるような文面にした。

2) 事業の実施体制に関する課題・気づき

・ワークショップ：中間支援組織である龍谷大学の手慣れたスタッフを複数名巻き込んだおかげでスムーズに開催できた。また、現地が見えにくいオンラインでの議論や検討を「地に足の着いたもの」にするため、地域をよく知り、地域づくりの経験豊富な市若手職員や地域おこし協力隊員に参画してもらったが、非常に重要な役割を果たした。

事業全般：事業実施に必要な打ち合わせ等はほとんど全てオンラインで開催したが、気軽に密に開催できたことによるメリットが大きかった。

3) ターゲット設定や募集・情報発信等に関する課題・気づき

・ワークショップの場で「若い卒業生は意外と忙しい」という声が聞こえてきた。今回ターゲットとした本市域学連携卒業生は社会人経験６年未満（20 代）なので、様々な面で余裕ができるまで長い目で関係性の再構築を図らなければならない。また、SNS による情報発信によって本来のターゲットとは異なる層（まちづくり団体、大学、民間事業者等）からも多くの参加を得た。

4) 各取組の実施・運営に関する課題・気づき

・卒業生等にとって手軽だったオンラインイベントも、その成果を関係人口として現地でカタチにする作業は手軽ではない。このようなオンラインとオフラインのギャップを埋めることは今後の課題である。

⑧今後の関係人口創出・拡大に向けた展望

1) 本事業の成果の今後の活用・発展方向について

・ワークショップやアンケートを通して創出した卒業生等の関係人口に対し、整備したホームページやメーリングリストを活用して、３件の具現化プロジェクトや、ホームページに掲載した様々な地域づくりプロジェクトへの参画を促すこととする。特に３件の具現化プロジェクトに関しては、プロジェクトリーダーが中心となり、ワークショップ参加者のうち継続参加を表明した 18 名と密接な連携を継続し、関係性を深めながら「関係人口と作り上げたリードプロジェクト」として必ず実現・成功させることする。なお、これらは後述４）の体制において行う。

2) 地域における関係人口への期待について

・学生時代に本市で地域づくり活動を経験し、地域をよく知る卒業生が、社会的にも経済的にも自立・成長した社会人の立場で関係人口として再び活躍することは、地域づくりをスピード感や連続性をもって企画・実践できる即戦力の確保の面で非常に有効である。また、卒業生が所属する企業の CSR 活動やビジネスのフィールドとして本市を選択してもらう可能性も有している。このような即効性や実行性に期待しつつ、卒業生等との連携による地域づくり活動を今後一層加速化させたい。

3) 今後の関係人口創出・拡大に向けた政策等について

・本市の総合基本計画や総合戦略において、地域課題の解決手法の一つとして域学連携事業や地域おこし協力隊制度による外部人材を活用した地域づくりや、人と人とのつながりを重視した政策を推進することとしていることから、関係人口の創出・拡大に係る取組は令和３年度以降も継続する。

4) 地域における持続的な受入の体制・仕組みについて

・中間支援組織である龍谷大学は、令和３年４月に「龍谷大学ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター洲本ブランチ」を本市にオープンする。そこを拠点に、洲本市域学連携推進協議会と龍谷大学が中心となり、本事業の成果の継続・発展、持続的な関係人口の受入、コワーキングスペースとしての開放、関係人口と地域の連携によるソーシャルビジネスやローカルベンチャーの起業支援等を行う。